

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第13回

羽州街道

〃こでらえねえまち〃秋田市

秋田市長 穂積

志



はじめに

街道という言葉を聞くと、多くの人は江戸時代の参勤交代、商人や参詣者の往来を思い浮かべるのではないか。

今はさまざまな情報が世界中を駆け巡り、それを簡単に手に



久保田城跡「千秋公園」

入れられる時代になったが、当時は、街道を往来する人々によって、人情話から政治・経済の話に至るまで多くの情報がもたらされ、そうした伝播が地域の文化形成に少なからず影響を与えたように思われる。

秋田市の都市としての成り立ちには、奈良時代に時の政府が北辺の政治や交易の拠点として出羽柵、後の秋田城を設置したことにかのほるが、現在のまちの原型は、中世期の安東氏による市北部での土崎湊の開港、関ヶ原の戦い後の佐竹氏入部によって築かれた久保田城とその城下町が基礎となっている。久保田城は藩政期を通じて政治の拠点として、また、港は北前船航路や雄物川水運の物流の拠点として繁栄し、そのにぎわいや活

発な交流が、今日に息づく秋田の文化をはぐくんだといえる。

南北に走る羽州街道

羽州街道は、五街道に準ずる重要な街道の一つで、奥州街道と並ぶ東北の二大街道といわれている。参勤交代の際は秋田の地を治めた佐竹氏をはじめ多くの藩が利用したほか、出羽三山（月山、羽黒山、湯殿山）参詣や物資の交易にも利用されていた。

佐竹氏は街道の整備にも注力したとされ、羽州街道沿いの地域では「佐竹街道」と呼ばれたところもあり、参勤交代の際に本陣となった宿場では、もてなしの歌や踊りが披露され、民俗芸能として今に受け継がれている地域もある。また、本市中心市



マスコットキャラクター「与次郎」

街地活性化のリーディングプロジェクトの再開発事業で建設された「エリアなかいち」のマスケットキャラクター「与次郎狐」は、初代藩主である佐竹義宣公の恩を受けた狐がお抱えの飛脚となった伝説にちなんだものである。この与次郎狐は、江戸と秋田の間を驚異の速さ（6日間）で往復したが、羽州街道沿いの村で無念の死を遂げ、その死を哀れんだ義宣公が霊を祀ったのがはじまりで、現在は明治の造園家・長岡安平が手がけた千秋

公園の本丸跡に与次郎稲荷神社として祀られている。

地域資源の活用

本市には、羽州街道のほかに秋田県と山形県の沿岸部を南北に連絡し、商人や出羽三山参詣者が主に利用したとされる羽州浜街道（酒田街道）がある。歴史の中では

あまり知られていない街道だが、その宿場であり醸造のまちとして栄えた市西部の新屋地区には、伝統的な町家とともに往事の面影を残す通りがある。ここでは「町家」「湧き水」といった歴史的資源と、地元の秋田公立美術大学の教員、学生という人的資源を融合させ、住民主導によるまちづくり活動や



湧き水の汲み場と古建築（国登録文化財）

イベントが活発に行われている。地域資源に対する住民の気づきをきっかけに始まり、最初は点であった活動が、今や住民主体のまちづくりとして地域全体へと広がりをみせている。

地域資源とまちづくり

羽州街道沿いの地域の多くは、近代的なまちに生まれ変わり、歴史的な街並みを残すところは少なくなっているが、そこには土地の記憶を残すものが必ず埋もれているはずであり、それを見つげる意味でも、先人たちと同じように歩いてみることも大切なことではないだろうか。何気なく道の傍らに置かれていた石が、その昔、馬をつなぎ止めていた石であったことを知り、そこにはどのような人が居たのだろうか。どのような商売をしていたのだろうか。などと想像をかきたてられることが多い。

日本は今、人口減少、少子高齢化によって社会が大きく変容しようとしており、不安や閉塞感が漂っているが、その打開、変革のきっかけは、自分の生活する地域に目を向け、これまで培ってきた歴史や文化を見つめ直し、地域の

持つさまざまな資源に磨きをかけ、いくことではないだろうか。秋田の方言で「こでらえねえ」という言葉がある。「たまらなくいい」といったニュアンスであるが、ここからの秋田市を「こでらえねえまち」と感じられるように、市民とともにまちづくりを考え、ともに歩んでいきたい。

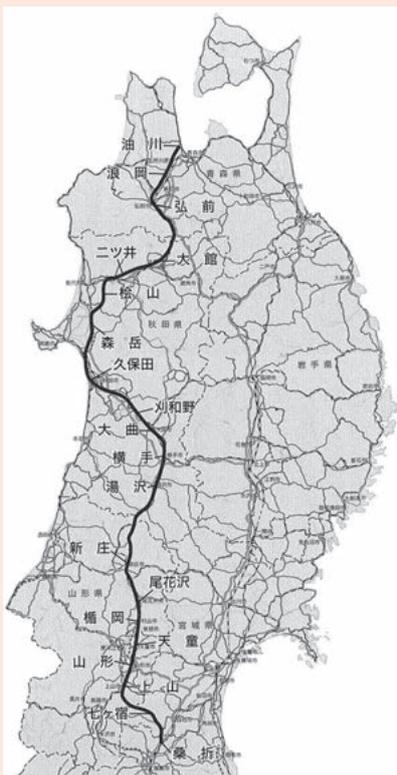
一口メモ

奥州街道と並ぶ東北の二大街道

羽州街道は、古くは、源頼朝の奥州攻めにあたり「鳥取越」（現在の小坂峠）の名で記録にあらわれる。江戸時代になり、五街道に準ずる重要な脇往還の一つとして整備された。桑折宿（福島県）を起点に、山中七ヶ宿（宮城県）を通り、奥羽山脈を越えて出羽国に入り、上山藩領（山形県）を通って、山形、天童、新庄

などの各藩内を經由。院内峠（雄勝峠）から秋田藩領を縦断し、さらに矢立峠から津軽藩（青森県）へ延びる長大な街道で、終着地の油川宿（青森県）までの間の宿場町は58宿を数える。

羽州街道の大部分は、現在の国道7号、13号、113号の基礎となっている。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」



湧き水にちなんだイベント「あrawa水祭り」